特別展「2014 年の自然遊学館の出来事」

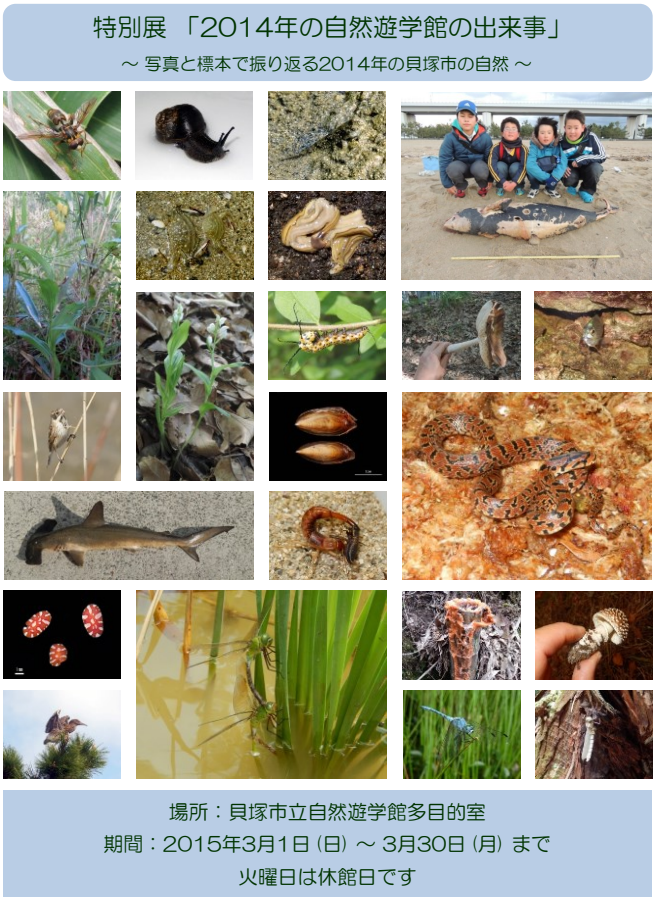
場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2015 年 3 月 1 日～3 月 30 日

2014 年の自然遊学館の出来事展を開催するに当たって

1993 年（平成 5 年）10 月に建てられた自然遊学館は、2013 年に 20 周年を迎え、今年で 21 年を過ぎたことになります。

以前雨漏りがあった、当会場、多目的室も遊学館の改良工事で修理されました。そんな遊学館から特別展『2014 年の自然遊学館の出来事』を開催いたします。どうぞ、2014 年の出来事展をお楽しみください。



自然遊学館の事業 3 本柱

1. 観察・調査活動事業

開館当時から続けている貝塚市全体の自然の観察・調査を『自然遊学館だより』や『貝塚の自然』で皆様にお届けしています。また、2012 年から新たに近木川汽水域の自然再生事業、『近木川汽水ワンド』の観察・調査を府より委託を受け行っています。

2. 展示・普及活動事業

館内の展示物の更新や年間行事を行い、貝塚の自然の普及活動を行っています。新しく 6 月『親子釣り体験』（初心者親子対象）、9 月『近木川のアユ調べ』、10 月貝塚市立善兵衛ランドとの共催事業『虫と星の観察会』を行っています。他にも、出前授業や観察会への講師派遣、各学校からの団体見学や職場体験の受け入れを行い普及に努めています。

3. 維持・管理事業

来館された皆様がゆっくり見学していただけるよう、館内外の維持・管理を行っています。

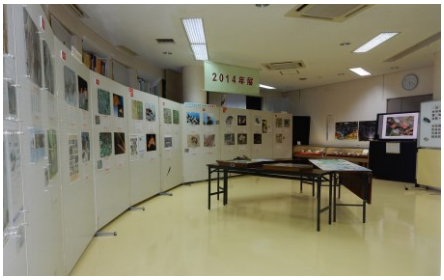
自然遊学館には来館していただいた皆様を驚かすような大きな仕掛けはありませんが、自然に親しみ、自然を大切にする心を育てる仕掛けはたくさんあります。これからも遊学館は、貝塚の自然

情報を市民の皆様に提供することを使命とし、市民の皆様の環境教育の場として、自然を楽しむ館として頑張ってまいります。応援よろしくお願いいたします。

最後に『2014 年の自然遊学館の出来事』開催に際し、多くの皆様にご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

2015 年 3 月
貝塚市立自然遊学館
館長　高橋 寛幸

展示会場の様子



展示内容

1. 写真と解説文
   2014 年 1 月から 12 月までの主な出来事の写真（A3 用紙に印刷）と解説
   以下に、写真と解説文をすべて掲載しました。
2. スライドショー
   A3 で印刷しなかった 82 枚の動植物の写真を大型モニターで 20 秒ごとに日付順に入れ替わるように提示しました（以下に、写真のリストを掲載しました）。
3. 標本
   2014 年に貝塚市内で採集された主な昆虫標本、およびヤドリギがブナにつくったコブの断面標本を展示しました。
4. 生きものカード
   表面に生きものの写真、裏面に種名と貝塚市内の生息場所を示した六角形のカードを、貝塚市の地図上に置いて、触ってみてもらえるように展示しました。

1. 写真と解説文

以下で紹介する出来事と写真は、すべて貝塚市内で撮影されたものです。それぞれの出来事について、タイトル、撮影日、撮影場所、1 行コメント、分類群（目と科）、解説文、写真、写真提供者（撮影者名がない写真は自然遊学館の職員が撮影したものです）を示しました。

シロシュモクザメ・・・2014 年 1 月 19 日、近木川河口

近木川河口にサメの死体！

メジロザメ目　シュモクザメ科

貝塚市立第四中学校の奥田慎樹さんと山口風稀さんが「近木川河口にシュモクザメの死体がある」と知らせてくれました。見に行くと、左岸のテトラポットの隙間に新鮮な死体がありました。成長すると全長 5 メートルになるそうですが、これは子供らしく 1 メートルもありません。頭部の前縁にくぼみがないことからシロシュモクザメと分かりました。はく製を館内に展示しています。

シロシュモクザメ

シャミセンガイ科の一種・・・2014 年 2 月 1 日、近木川河口

生きた化石として知られる

舌殻目　シャミセンガイ科

当館主催の観察会「打ち上げ貝拾い」で、シャミセンガイ科の一種の殻が 2 個体記録されました。シャミセンガイは触手動物門腕足綱に属し、シャミセン“貝”という名で貝殻様の殻を持ちますが、貝の仲間ではありません。また、三味線のような外観から和名がつけられています。シャミセンガイ類はカンブリア紀に起源をもつ腕足動物の一群であり、出現以来、ほとんどその形態が変わらないことから「生きた化石」とされてきましたが、最近の学説では否定されています

シャミセンガイ科の一種

フザリウム Fusarium・・・2014 年 2 月 13 日、蕎原

人工物かと思ったら

ボタンタケ目　アカツブタケ科

蕎原の近木川沿いの作業道で、モウソウチクの切り株に橙色のブヨブヨした物質が付着していました。色から判断してゴムのような人工物に見えたのですが、棒で触ると柔らかく「生きもの」のようです。何とか調べていって、ようやくたどり着いたのがフザリウム（*Fusarium*）属というカビの仲間でした。切り株から出た液に繁殖したものです。フザリウム属は分生子を出して無性生殖する不完全世代で、有性生殖する完全世代が判明していない菌類の総称だそうです。

フザリウム属の一種

赤とんぼの卵・・・2014 年 2 月 14 日、市民の森「自然生態園」（二色）

自然生態園の雪景色

トンボ目　トンボ科

自然生態園の「トンボの池」では、アメリカザリガニが増えすぎたせいで、ヤゴ（トンボの幼虫）がほとんどいなくなってしまいました。アメリカザリガニの退治のために、2013 年の 7 月から 2014 年の 1 月まで、池の改修も兼ねて、長期間の池干しをしました。1 月に水を入れた後、春か夏にトンボが卵を産みに来るまで、ヤゴを見ることはないと思っていたのですが、前年の秋にアカネの仲間が干上がった池底の泥に産卵していたようで、春からヤゴを見ることができました。

自然生態園の積雪

オオジュリン・・・2014 年 3 月 17 日、近木川河口

ジュリ～ンと鳴くからオオジュリン？

スズメ目　ホオジロ科

冬鳥。近木川河口のヨシ原で、晩秋から初春にかけて見られることがあります。ヨシ原の減少とともに少なくなり、2014 年の大阪府レッドデータブックの改定で、要注目から準絶滅危惧へとランクが引き上げられました。2002 年から石毛久美子さんと食野俊男さんによって毎月調査されてきた近木川河口でも、これまで 2008 年と 2010 年の記録（4 例）があっただけです。（食野俊男さん撮影）

オオジュリン
（植物はヨシ）

ジムグリ・・・2014 年 4 月 19 日、千石荘（名越）

幼蛇はマムシに似ている？

ヘビ亜目　ナミヘビ科

ボランティア清掃の日、草刈り中に「マムシ！」という参加者の声が聞こえました。周りの草を刈って見つけたのが、赤い模様のあるヘビでした。その場では「マムシではないけど、ヤマカガシという毒蛇かもしれないので、気をつけましょう」ということになったのですが、自然遊学館に帰って調べると、ジムグリの幼蛇でした。毒はありません。幼蛇の時に何となくマムシに似ているヘビは意外と多いんですね。擬態しているのかもしれません。館内で飼育展示しています。

ジムグリ

ムカシトンボ・・・2014 年 4 月 26 日、近木川上流（蕎原）

生まれて何年たったかな

トンボ目　ムカシトンボ科

ムカシトンボの幼虫は渓流の水がきれいな場所にすんでいます。トンボの中では幼虫期間は長く、成虫になるまで 6～7 年かかります。成虫はあまり見ないのですが、葛城山登山の行事の時に、川沿いの林道わきで羽化を見ることができました。幼虫は陸に上がって、水から離れた場所でしばらくじっとしていて、羽化します。上陸した幼虫を下見の時に見つけて、その近くで休憩をとったことが良かったのだと思います。

羽化直後のムカシトンボ

ギンランとキンラン

ギンラン・・・2014 年 5 月 8 日、千石荘（名越）

キンラン・・・2014 年 5 月 19 日、馬場

きれいだけれど変わった植物

単子葉植物　ラン科

千石荘のギンランは 2012 年の植物調査で見つかったもので、2014 年も撮影できました。馬場のキンランは、三ツ松在住の北田誠さんに教えてもらったものです。いずれも樹木と共生している菌根菌に半寄生（共生）するランで、ランだけ持ち帰っても庭で栽培するのは極めて困難です。かつては雑木林の林床でよく見られたそうですが、下草刈りなどが行われなくなって減少してしまいました。いずれも大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されています。

ギンラン

キンラン

イボタガの幼虫・・・2014 年 5 月 22 日、馬場

黒い「ひも」は何のため？

チョウ目　イボタガ科

馬場の林道沿いのイボタノキで、変な形をしたガの幼虫を見つけました。ちぢれた黒色の紐のようなものが 7 本、胴体から出ています。これだけ特徴があったら写真でも種が分かると思って採集せずに帰って調べると、これまで自然遊学館に標本がなかったイボタガの幼虫だと分かりました。大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されている種でもあります。翌日、現地に再び行き、3 個体を採集しました。6 月 9 日に蛹になりました。

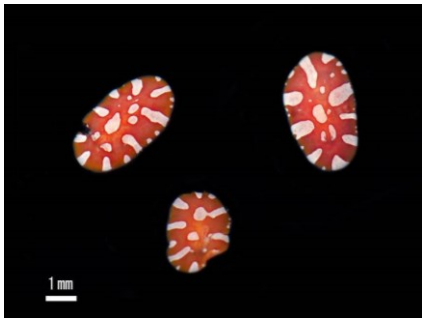
イボタガの幼虫

モヨウマルヒラムシ・・・2014 年 6 月 12 日、近木川河口

近木川河口きってのオシャレさん

ヒラムシ目　マルヒラムシ科

近木川河口の前浜には大小の転石があり、その各石をめくると数個体のモヨウマルヒラムシが生息しているのが確認されました。モヨウマルヒラムシは扁形動物門のウズムシ綱ヒラムシ目に属する海産動物です。じっと見ていると、石の表面をゆっくりと滑るように移動して逃げる様子がわかりました。見ての通り、宝石のような鮮やかさですが、腹側に口があり、小動物を襲って食べる肉食性なんですよ。



モヨウマルヒラムシ

トゲカイエビ・・・2014 年 6 月 28 日、脇浜

水田を泳ぐ貝の正体は？

双殻目　トゲカイエビ科

田植えの時期を迎える頃、田んぼに水が張られると、現れるのが田んぼのエビたちです。カブトエビやホウネンエビは結構知られているようですが、二枚貝のようなものが泳いでいるのはご存知でしょうか？よく観察すると、二枚の殻の隙間から脚を出して水中を泳ぎまわっています。その名もカイエビという仲間です。貝塚市で見つかったものは頭部にトゲ（写真の赤丸）を持つ、トゲカイエビという種です。

トゲカイエビ

ベニイトトンボ・・・2014 年 7 月 6 日、千石荘

止まっている植物も絶滅危惧種

トンボ目　イトトンボ科

千石荘にはベニイトトンボとキイトトンボという同属のイトトンボがいます。どちらも大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されていますが、千石荘ではキイトトンボは少なくありません。ベニイトトンボはわずかです。2011 年と 2012 年には確認できず、2013 年は 1 個体しか確認できませんでした。2014 年は 7 月と 8 月に確認できました。アンペライを背景に撮影すると、不思議な感じの写真になります。そのアンペライも絶滅危惧 I 類に指定されている希少種です。

ベニイトトンボ

ナツノタムラソウ・・・2014 年 7 月 15 日、東手川（蕎原）

アキノはふつうに見られるけれど

合弁花植物　シソ科

以前から植物に詳しい方に「東手川にナツノタムラソウがある」と教わっていたのですが、なかなか行く機会がありませんでした。2014 年はなんとか、花の時期の終わりながらも、時間を取ることができました。ほんの少しだけ花が残っていました。花の時期が遅いアキノタムラソウよりも紫色が濃く、おしべが花から長く出ているのが特徴です。アキノタムラソウよりも希少で、大阪府レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

アキノタムラソウ

オクヨウジ・・・2014 年 7 月 14 日、二色の浜アマモ場

アマモ場の住人

トゲウオ目　ヨウジウオ科

二色の浜には大阪府沿岸では最北に位置するアマモ場の自生地があります。アマモは海中に生える種子植物で、海藻とは異なります。アマモ場は外敵からの隠れ家となり、幼稚魚や葉上につく小動物やの生息場所になります。タツノオトシゴやヨウジウオなどの遊泳力の弱い魚にとっても、棲みかとしてよりどころとなります。今回、見つかったオクヨウジは貝塚市では初記録となりました。

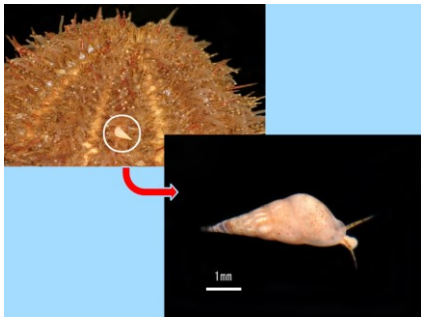
オクヨウジ

サンショウウニヤドリニナ・・・2014 年 7 月 28 日、二色の浜

ウニに寄生する巻貝

翼舌目　ハナゴウナ科

二色の浜を水中マスクでのぞくと、砂地を這うサンショウウニを見かけることがあります。トゲは短く横縞があるウニで、食べると山椒のような風味がありますが、普通は食用としません。捕まえてみると、小さな巻貝が 1 つ付いているのを見つけました。白く光沢のある半透明の細長い貝殻（長さ４ｍｍ程）で、軟体には橙色の斑点があります。二色の浜では初めて記録された巻貝で、きまってサンショウウニに寄生します。



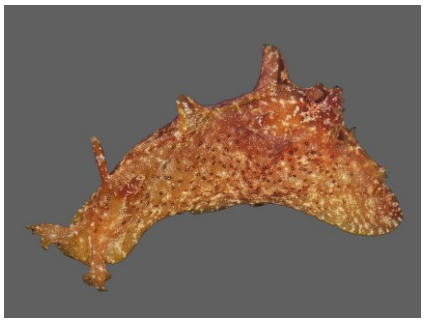
サンショウウニヤドリニナ

ミドリアメフラシ・・・2014 年 8 月 7 日、二色の浜

雨降らし

後鰓目　アメフラシ科

二色の浜の砂地で地曳網を行った際に、採れた魚介類のひとつです。大量のアナアオサも一緒に網に入っていましたので、おそらくそのアナアオサを食べているさなか、捕まってしまったのではないかと思います。同属のアメフラシより小型ですが、刺激を受けると紫色の汁を出すのは同じです。海水中に出された紫色の汁は、雨雲が立ち込めたように広がるので、アメフラシと和名がついたようです。



ミドリアメフラシ

ギンヤンマ・・・2014 年 8 月 14 日、自然生態園

トンボの池の改修を祝う

トンボ目　ヤンマ科

アメリカザリガニが増えてトンボが減ってしまった「トンボの池」で、ザリガニ退治と池の補修を兼ねて、2013 年 7 月から 2014 年 1 月まで池干しを行いました。2013 年の秋は水がなかったので、泥上に産卵するアカネ属だけが産卵したようです。水入れ後にやってきてくれたのは、ギンヤンマとシオカラトンボでした。写真はギンヤンマのペアで、上がオス成虫、下がコガマに産卵しているメス成虫です。トンボの池の改修を祝うかのような光景でした。

ギンヤンマ

ヒメヤマトオサガニ・・・2014 年 8 月 23 日、

近木川河口干潟再生地

干潟再生地でバンザイするカニ

十脚目　オサガニ科

完成して間もない近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）は、まだ干潟と呼べるような地形まで砂泥が堆積していないのですが、潮がひくと一部にぬかるんだ泥の場所が現れます。このような環境を好むヤマトオサガニやヒメヤマトオサガニがさっそく住み着き始めました。とくにヒメヤマトオサガニは南方系の種で大阪湾ではあまり記録がなく、大阪府レッドリストでは、準絶滅危惧に指定されています。また、バンザイするように両ハサミを高々上げるハサミ振り行動を行います。

ヒメヤマトオサガニ

トビハゼ・・・2014 年 9 月 6 日、近木川河口干潟

ついに姿を現したマッドスキッパー

スズキ目　ハゼ科

館主催の観察会でカニ釣りを行っているさなか、干潟の澪筋で何かが跳ねたように思い、目を凝らすと小さなトビハゼがいるのを見つけました。大阪府内では男里川河口で最近の記録がありますが、生息数は少なく、大阪府レッドリストでは、絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。陸上生活によく適応したハゼ類で、胸ビレを腕のように使って泥上をはい回ります。干潟の人気者で、近木川河口干潟にいつ来てくれるか心待ちにしていた種です。

トビハゼ

ナニワトンボ・・・2014 年 9 月 16 日、千石荘（名越）

青くても赤とんぼ

トンボ目　トンボ科

自然遊学館がずっと注目してきた「青いアカトンボ」こと、ナニワトンボのオス成虫です。2011 年から 2013 年の定期調査では確認されていなかったのですが、2014 年は 7 月から 9 月にかけて確認されました。写真を撮っていると左手に止まりに来ました。大阪府レッドデータブックは 2014 年に改訂され、ナニワトンボは準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類へ変更されました。府下の水辺環境の悪化を受けて、絶滅の危機が増加したと判断されたからです。

ナニワトンボ

メナダ・・・2014 年 9 月 20 日、近木川河口干潟再生地

汽水ワンドのメジャーな魚

ボラ目　ボラ科

近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）は、近木川からの河川水と海からの海水が行き来し、混じり合う汽水域の環境です。この場所でもっとも目にする魚はボラ類です。これまでボラ、セスジボラ、メナダの３種類が採集されています。メナダは今回、初めて採集されました。ボラと比べ、頭部がやや小さい、尾ビレの湾入が浅いなどの見た目の違いがあります。最近の研究で、ボラ類は泥上の付着藻類を主な餌とすることがわかってきました。

メナダ

アカウミガメ・・・2014 年 9 月 23 日、貝塚港（港）

最後に見たのは、どんな景色

カメ目　ウミガメ科

匿名希望の方から「貝塚港のテトラポットにウミガメの死体があがっている」「釣り人の話では一週間前から死体はあるそう」と言われて、一緒に見に行きました。かなり腐乱して、はく製にできない状態でした。日本ウミガメ協議会にはすでに連絡が行っていたようで、オスで甲羅の長さ 836mm、幅 697mmだと「ウミガメ速報」というニュースで発表がありました。4 日後に見に行くと、テトラポットの隙間から海に落ちそうで、何とか指の骨を 2 本だけ採集しました。

アカウミガメ（死体）

オオハサミムシ・・・2014 年 9 月 26 日、自然遊学館飼育

ハサミムシは臆病者？

ハサミムシ目　オオハサミムシ科

ハサミムシの仲間が餌をとる時に「はさみ」を使うのか試してみました。その強そうな構えから想像されるのとは正反対に、ハサミムシが弱腰なのが分かりました。臆病という言葉が当てはまるくらいです。ハサミムシの仲間は雑食性で、海岸の砂浜にすむオオハサミムシも、あえて生餌を食べなくても、海浜植物や打ち上げられた動植物の死体などを「安全に」食べ続けるという手もあります。カマキリの仲間のように、ずっと生餌を食べる捕食者とは違うのだと再認識しました。

オオハサミムシ

ゴイサギ・・・2014 年 10 月 14 日、二色の浜公園

雨にも負けず風にも負けず

コウノトリ目　サギ科

9 月の中旬ごろから二色の浜公園の南側の一角で、夜の鳴く虫調査の際にサギ類の鳴き声を聞くようになりました。その後、昼間に見に行って、ダイサギとゴイサギがコロニー（集合巣）を作っていることが分かりました。10 月 13 日、台風 19 号が岸和田市に上陸して、風雨が強くなりました。翌日、サギたちのコロニーがどうなっているのか見に行くと、ゴイサギの幼鳥が飛ぶ練習をしていました。ゴイサギの幼鳥には白い斑紋があり、「ホシゴイ」という別名で呼ばれることもあります。

ゴイサギ（幼鳥）

テラニシアリツカコオロギ・・・2014 年 10 月 18 日、市民の森（二色）

バッタ目 101 種目はアリの巣の居候

バッタ目　アリツカコオロギ科

10 月 15 日、自然生態園で、ふと石をめくると、トビイロケアリの巣があり、その中にアリツカコオロギを 2 個体見つけました。その時は採集道具を持っておらず、撮影後に逃げられてしまいました。17 日、採集に失敗。18 日に筆とフィルムケースを使って 2 個体採集することが出来ました(体長 3 ミリ弱、いずれもメス成虫)。自然遊学館の記録で、貝塚産バッタ目 101 種目となりました。アリの巣の中で、食べ残しを頂戴したり、アリから口移しで餌をもらいます。

テラニシアリツカコオロギ

イボテングタケ・・・2014 年 11 月 1 日、二色の浜公園

テングタケに似ているけれど

ハラタケ目　テングタケ科

初めはテングタケかなとも思ったのですが、傘のいぼが硬いイボテングタケ *Amanita ibotengutake* でした。最近の研究によって、テングタケ *Amanita pantherina* とは別種であることが確定したようです。撮影していると、ある方から「マツタケですか」と尋ねられました。色は似ているかもしれませんが、こちらは毒キノコです。毒の成分はイボテン酸で、うま味がある物質なのでやっかいです。気をつけてください。

イボテングタケ

テングタケ・・・2014 年 11 月 4 日、水間公園

天狗の鼻をつかむ？

ハラタケ目　テングタケ科

4 年前にも水間公園で見つけていたので、すぐにテングタケだと分かりましたが、なかなか大きなものでした。毒キノコです。食べられません。帰ってから写真を見ていると、天狗のお面の鼻の先をつまんでいるように見えてきました。見えないですか（^^;。テングタケの名前は、柄の部分の立派さを天狗の鼻に見立てたのかと思い至ったのですが、調べても確かなことは分かりませんでした。

テングタケ

ワタリコウガイビル・・・2014 年 11 月 10 日、汽水ワンド北側斜面

5 本線の外来種

ウズムシ目　コウガイビル科

ヒルという名前が付いていますが、血や体液を吸う蛭の仲間ではなく、プラナリアと同じ扁形動物の仲間です。これまで 3 本線が入ったオオミスジコウガイビルは見たことがありましたが、5 本線が入ったものは初めて見ました。調べると、大阪市内でも見つかっている外来種のワタリコウガイビルでした。コウガイビルの仲間は雌雄同体で、絡み合っていた 2 個体は交尾していたのかもしれません。肉食性で、腹面中央にある口からミミズやナメクジなどを食べるそうです。

ワタリコウガイビル

ウスカワマイマイ黒色型・・・2014 年 11 月 15 日、脇浜

不気味な黒いカタツムリ

有肺目　オナジマイマイ科

脇浜にお住まいの方から「畑にいた黒いカタツムリの種類を教えて欲しい」と言われました。自然遊学館に展示しているカタツムリの標本と見比べると、ウスカワマイマイが一番似ていました。インターネットで調べると、淡黄褐色からほぼ黒色のものまで、殻の色彩に変異があるようです。でも、門真市で話題となったヒメリンゴマイマイにも似ています。神戸植物防疫所の方の意見から、ウスカワマイマイに決着しましたが、殻も軟体部も何だか不気味な色をしています。

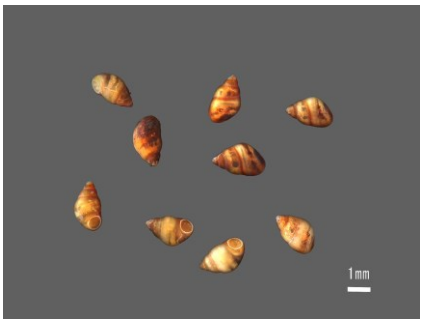
ウスカワマイマイ黒色型

エドガワミズゴマツボ・・・2014 年 11 月 20 日、
近木川河口干潟再生地

泥の中から微小貝

盤足目　ミズゴマツボ科

近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）に堆積した泥の中にはどんな生物がいるかを調査しています。胴長をはいてズブズブ歩き、タモ網で泥をすくっては振るいます。さまざま生物が姿を現しますが、特段小さいのがこの貝です。殻長２㎜ほどの大きさで、まさにゴマのようです。貝塚市ではこれまでこの場所以外で採集されておらず、大阪府レッドリストでも、準絶滅危惧に指定されています。



エドガワミズゴマツボ

コゲツノブエ・・・2014 年 11 月 20 日、近木川河口干潟再生地

泥の中から鬼の角

盤足目　オニノツノガイ科

近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）に堆積した泥をふるうと、細長い巻貝で一見するとウミニナ類に似た貝が見つかりました。殻表には丸い小さなイボ状突起が多数並び、ウミニナ類とは異なり、オニノツノガイ科に属します。今回、殻長 5mm ほどのものから 25mm ほどのサイズのものまで採集されました。貝塚市で初記録にとどまらず、大阪府においても初記録となります。

コブツノブエ

マダラバッタ・・・2014 年 12 月 8 日、汽水ワンド北側斜面

紅色型は何のため？

バッタ目　バッタ科

定期的に調査している汽水ワンドの北側斜面にいたマダラバッタです。南向きの斜面は暖かいようで、12 月に入ってもバッタの仲間が活動しています。バッタの仲間には同じ種の中に緑色型と褐色型があることが多いのですが、まれに紅色型が現れます。写真を撮影した後、パソコン画面上で見ていて、この紅色型はイネ科のこういった紅色に適応したものかなと思いました。真偽のほどは分かりません。

マダラバッタ紅色型

ヘダイ・・・2014 年 12 月 14 日、自然遊学館飼育

口がへの字に曲がった鯛

スズキ目　タイ科

コウノトリ目　サギ科

自然遊学館の海水水槽で飼育展示しているヘダイを撮影すると、たまたま真正面からの写真が撮れました。口が「へ」の字に見えます。もしかして、この口の形が和名の由来かなと、ふと思ったのですが、漢字を調べると、平らな鯛という意味で「平鯛」と書くことが分かりました。たぶん、こちらの方が和名の由来として正しいのだとは思いますが、口がへの字説も存在するようです。それくらい口角が下がっているんですね。

ヘダイ

スナメリ・・・2014 年 12 月 18 日、二色の浜

二色の浜にスナメリの死体！

クジラ目　ネズミイルカ科

貝塚市立西小学校 5 年生の 4 人、宇賀天海さん、新谷幸太さん、広瀬一進さん、黒崎裕太さんが、二色の浜で「イルカのようなものが打ち上がっている」のを見つけ、知らせてくれました。スナメリの死体で、全長は約 135 cmありました。大阪府レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。自然遊学館には、2007 年 3 月に打ち上げられたスナメリの骨格標本がすでに展示されているので、今回の標本は、大阪市立自然史博物館に移管となりました。

スナメリ（死体）

2. スライドショー

A3 で印刷しなかった 82 枚の動植物および景観の写真を幅 108 cmの大型モニターで、パワーポイントを使用して 20 秒ごとに日付順に入れ替わるように提示しました。82 枚の写真はいずれも 2014 年に貝塚市内で撮影されたものです。

BGM として、「フリーBGM・音楽素材 MusMus」からダウンロードした、woodnote、stringformes の 2 曲を使用しました。以下に、スライドショーで使用した画像のリストを示しました。カワセミの写真は食野俊男氏に寄贈していただいたものです。

スライドショーを提示した大型モニター（左）と各スライドの一覧（右）

特別展「2014年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧－1

日付	区分	種名など	場所	備考
1月22日	鳥	カワセミ	近木川河口	食野俊男氏撮影
2月13日	植物	フユイチゴ	近木川上流	
2月14日	植物	梅と雪	市民の森	
2月14日	景観	トンボの池	市民の森	
2月20日	植物	ジャノヒゲ	蕎原	
2月22日	鳥	ホオジロ	千石荘	
2月22日	鳥	オナガガモ	近木川河口	
3月30日	魚	カワハギ	自然遊学館	
4月7日	両生類	ウシガエル	自然遊学館	特定外来種（環境省）
4月17日	昆虫	ムカシトンボの幼虫	近木川上流	準絶滅危惧（大阪府RL）
4月17日	植物	ニリンソウ	和泉葛城山	
4月24日	キノコ	アラゲカワキタケ	馬場	
4月24日	両生類	ミツユビアンフューマ	自然遊学館	
4月26日	昆虫	コカブトムシ	市民の森	
5月7日	植物	チゴユリ	和泉葛城山	
5月7日	昆虫	シダクロスズメバチ	和泉葛城山	
5月19日	昆虫	クロカタビロオサムシ	秬谷	
5月19日	植物	コバノタツナミソウ	秬谷	
5月20日	昆虫	セダカコブヤハズカミキリ	和泉葛城山	準絶滅危惧（大阪府RL）
5月23日	昆虫	イボタガの幼虫	馬場	準絶滅危惧（大阪府RL）
5月27日	昆虫	オオツマグロハバチ	東手川	
5月30日	陸産貝	ギュリキマイマイのふ化	自然遊学館	
5月31日	甲殻類	モクズガニ	近木川河口	

特別展「2014年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧－2

日付	区分	種名など	場所	備考
6月2日	昆虫	テングチョウ	秬谷	
6月7日	昆虫	ハゴロモヤドリガの幼虫	千石荘	
6月8日	キノコ	スミレホコリタケ	市民の森	
6月9日	昆虫	イボタガの蛹化	自然遊学館	準絶滅危惧（大阪府RL）
6月10日	陸産貝	アズキガイ	和泉葛城山	準絶滅危惧（大阪府RL）
6月14日	クモ	ウズキコモリグモ	自然生態園	
6月16日	甲殻類	フナムシの脱皮	自然遊学館	
6月17日	植物	カキノハグサ	和泉葛城山	絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
6月17日	昆虫	ヒオドシチョウ	和泉葛城山	
6月17日	節足動物	タマヤスデ属の一種	和泉葛城山	
6月26日	昆虫	外来ギンヤンマ	自然遊学館	
7月1日	昆虫	テングオオヨコバイ	和泉葛城山	絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
7月1日	昆虫	クサギカメムシの幼虫	和泉葛城山	
7月6日	キノコ	ヤナギマツタケ	千石荘	
7月9日	キノコ	ヘビキノコモドキ	千石荘	
7月14日	昆虫	スキバツリアブ	汽水ワンド周辺	
7月14日	甲殻類	ヤマトオサガニ	自然遊学館	
8月5日	昆虫	シロスジナガハナアブ	和泉葛城山	
8月7日	魚	コショウダイ	二色の浜	
8月19日	昆虫	リンゴドクガ	和泉葛城山	
8月26日	キノコ	イグチ科の一種	水間公園	
8月28日	植物	セトウチホトトギス	東手川	準絶滅危惧（大阪府RL）
8月30日	植物	アメリカネナシカズラ	二色の浜	
9月1日	爬虫類	アオダイショウ	自然遊学館	
9月7日	甲殻類	ハマガニ	近木川河口	
9月7日	魚	アイゴ	自然遊学館	
9月9日	昆虫	オオヒゲナガハナアブ	和泉葛城山	
9月9日	キノコ	トンビマイタケ	和泉葛城山	
9月16日	昆虫	ナニワトンボ	千石荘	絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
9月16日	昆虫	ナニワトンボ	千石荘	絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
9月16日	昆虫	キンケハラナガツチバチ	千石荘	
9月18日	キノコ	オオイチョウタケ	和泉葛城山	
9月18日	昆虫	クロハサミムシ	和泉葛城山	
9月18日	キノコ	ヒトクチタケ	和泉葛城山	
9月21日	魚	アユ	近木川河口	
9月21日	昆虫	アオスジアゲハ	近木川河口	
9月24日	昆虫	ウミベアカバハネカクシ	近木川河口	
9月26日	昆虫	オオハサミムシ	二色の浜	
10月3日	爬虫類	イシガメ	三ツ松大橋	準絶滅危惧（大阪府RL）
10月7日	キノコ	チャカイガラタケ	千石荘	
10月7日	キノコ	カワウソタケ	千石荘	
10月8日	爬虫類	アオダイショウの幼蛇	和泉葛城山	
10月8日	植物	イズミカンアオイ	和泉葛城山	
10月9日	昆虫	アサギマダラ	和泉葛城山	
10月9日	昆虫	チビクチキウマ	和泉葛城山	
10月14日	昆虫	ナミアゲハの幼虫	自然遊学館前	
10月15日	昆虫	テラニシアリツカコオロギ	自然生態園	
11月2日	陸産貝	ギュリキマイマイの産卵	自然遊学館	
11月5日	キノコ	チチアワタケ	二色の浜	
11月6日	景観	ブナ林内の道	和泉葛城山	
11月6日	昆虫	テングイラガの幼虫	和泉葛城山	
11月27日	キノコ	チヂレタケ	東手川	
11月29日	魚	タツノオトシゴ	自然遊学館	
12月1日	魚	イシダイ	自然遊学館	
12月3日	景観	ブナ林の積雪	和泉葛城山	
12月3日	キノコ	チャカイガラタケ	和泉葛城山	
12月8日	昆虫	クリオオアブラムシ	汽水ワンド周辺	
12月10日	鳥	ハクセキレイ	二色の浜	
12月19日	植物	コナラ	千石荘	

3. 標本

2014 年に貝塚市内で採集された昆虫標本のうち、自然遊学館初記録種や絶滅危惧種など 36 点、およびヤドリギがブナにつくったコブの断面標本を展示しました。ブナのコブの標本は、2014 年 10 月 8 日に和泉葛城山の山頂付近で、枝ごと折れていたものを、半寄生の状態が見えるように切ったものです。

昆虫標本箱１

昆虫標本箱２

ブナのコブの標本

4. 生きものカード

写真やスライドショーで紹介した生きものの画像を六角形（幅 5.4 ㎝×高さ 6.1 ㎝）に切ってカードを作り、裏面に種名を貝塚市内での生息場所を示し、貝塚市の地図上に置いて、手に取って見ることができるようにしました。

生きものカードを置いた貝塚市の地図

カードの裏面

以上、特別展「2014 年の自然遊学館の出来事」において展示した写真や標本の紹介をしました。その他、2014 年に開催した特別展のポスターや自然遊学館だよりの目次などを展示しました。